

えりも町版引き継ぎシート「かぜのこ 全体シート」

取扱注

西暦【 】年度作成

【1/2】 枚目

子供について	【 2020 年度生まれ】（※データ保存年度 2038 年度終了まで）				
作成者	【			記入者名	【
引き継ぎ先	【				
作成日	令和	年	月	日	
引継ぎ日	令和	年	月	日	

[illegible]

【シート記入にあたって】

※色のついたセルに入力、またはプルダウンより選択してください。

※「えりもの重点」は、記入者の主観で「特に素晴らしい」のみ◎印を

※「苦手・困難・配慮」は、記入者の主観で気になる場合は△、特別支援・関係機関等の対象となっている場合は▲

※「連携」については、該当する機関があれば、チェック印を

※全ての子供に全ての印を付けるものではありません。該当する所のみ印をつけてください。

※21名以上の場合は、シートをコピーして「様式1-2」を作成してください。

※作成したデータは、各所属にて保存してください。（各所属での保存期間は出生年度+18年とします）

えりも町版引き継ぎシート 「かぜのこ 個別シート」

取扱注意

ふりがな 氏 名・生年月日		生年月日 西暦 年 月 日	
保護者名・住所		保護者名 【 】	住所：えりも町字 【 】
所見・引継ぎ事項、家庭や保護者との関係等			
0歳			
所属【 】	記入者【 】		
1歳			
所属【 】	記入者【 】		
2歳			
所属【 】	記入者【 】		
3歳			
所属【 】	記入者【 】		
4歳			
所属【 】	記入者【 】		
5歳			
所属【 】	記入者【 】		
6歳			
所属【 】	記入者【 】		
小学校	えりも 小学校 7歳 1年生		
	記入者【 】		
	えりも 小学校 8歳 2年生		
	記入者【 】		
	えりも 小学校 9歳 3年生		
	記入者【 】		
	えりも 小学校 10歳 4年生		
	記入者【 】		
中学校	えりも 中学校 11歳 5年生		
	記入者【 】		
	えりも 中学校 12歳 6年生		
記入者【 】			
高等学校	えりも 中学校 13歳 1年生		
	記入者【 】		
	えりも 中学校 14歳 2年生		
	記入者【 】		
	えりも 中学校 15歳 3年生		
	記入者【 】		
高等学校	えりも 高等学校 16歳 1年生		
	記入者【 】		
	えりも 高等学校 17歳 2年生		
記入者【 】			
高等学校	えりも 高等学校 18歳 3年生		
	記入者【 】		

【シート記入にあたって】

※色のついたセルに入力、またはプルダウンから選択してください。

※行が足りない場合は、セルの高さを変更してください。

※できるだけ具体的に記入してください。

※家庭・保護者との関係性（やりとり）について特筆すべき事項があれば、必ず記載してください。

えりもしゃくなげ

発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

<http://www.town.erimo.lg.jp/section/>kyouiku/sg6h940000000pqh.html

幼児期から小学校入学後の学校生活を『なめらか』にするため、幼児教育施設と小学校が一層、連携を図ることが求められています。そのため、えりも町では、昨年度からスタートプログラムの研究を進めています

●これまでの取組

- 『引継ぎ』、小学校入学に当たっては、各小学校が幼児教育施設と入学前に、幼児期の様子などを聞く引継ぎを行っています。
- 『学校行事等で交流』、各小学校では、例えば、運動会や学習発表会に幼児が参加する企画をしています。また、3学期には入学前の体験入学を行っています。
- 『先生方の交流』、小学校では年に数回、先生方が保育所や幼稚園を訪問し、幼児の姿を見学しています。また、話し合いをする機会を設けています。

●課題

- 全国的に「小学1年生が学校生活に適應できないために問題行動を起こす、いわゆる『小1プロブレム』」が大きな課題となっています。
- 子どもの活動の中心が『遊び』から『学び』に移ることから、集団行動が取れなかったり、

いじめにつながったり、不登校になるケースなどが見られます。

●期待される取組

- 北海道教育委員会では、幼小接続の充実を図るため、令和4年度から3年間、文部科学省が進める「架け橋プログラム」の研究を受けて研究を深めることとしました。当町はその指定地域となったところです。

●今後のえりもの研究実践

- えりも小学校が中心となり、保育所、幼稚園と連携し研究を進めていきます。
- 特に、えりも小学校はスタートカリキュラム（幼児期の年長後半と小学校入学時の計画）を一步進め、年長始めから小1年終了までのカリキュラム（『スタートプログラム』）を作成し実践を行います。
- 写真は、4月18日、入学間もない児童が、楽しそうに学習に参加している様子です。



●『小1プロブレム』の言葉の意味について

- この言葉は、中学生が入学時に起こる「中1ギャップ」と同様に、小学1年生が入学時に新しい環境になじむことが難しい状況に陥っている時に使われ、『小1プロブレム』とされています。

●もうすでに幼児教育施設と学校の研究が深められています。

- 各小学校では、子どもたちの『遊び』から『学び』に移行する時期の「なめらかな活動」を目指し、保育所や幼稚園との話し合いや見学など、忙しい中ですが研究実践が進められています。
- 4月18日には、えりも小学校で参観日が行われましたが、中央保育所の北村所長と年長の担任だった野阪先生、光の園幼稚園の川村副園長、森先生が1年生や2年生から6年生を参観しました。先生方は、卒園後の子どもの楽しく学んでいる姿を参観し、ホッとしていました。

えりも小1年生20名、4月22日に初めての参観日

- 児童は、国語の時間に、文字の綴り方の学習に取り組んでいました。
- すでに「立腰」や、「鉛筆の持ち方」など、学習に参加する基礎的な態度が身に付いている児童など、様々な様子が見られました。

社会教育課から

放課後児童クラブが 始まっています

- 教育委員会では、本年度もえりも（本町）と庶野の2か所で放課後児童クラブを開設しました。現在、登録児童数は5月1日現在、えりもクラブが26名、庶野クラブが13名です。
- 来所した児童には、指導員が付き添い、ランドセル等を決められた棚にきちんと置きます。
- そして、新型コロナウイルス感染防止のため、手洗い、うがいをしますが、その際、2年生や3年生が新1年生に教えてくれることもあります。



お弁当の時間

- 児童クラブでは、家庭学習の習慣を身に付ける学習にも取り組んでいます。今は、学校からの宿題も少ない時期ですが、児童ク

ラブで用意したプリントを用いて、机に座り勉強に取り組む習慣づくりの最中です。その後、おやつの時間、工作や友達同士で遊ぶ時間帯などの日程で保護者のお迎えまで過ごします。

- また指導員は、常に子どもたちが安心して過ごすよう見守り、時に、子どもたち同士のトラブルが生じたときには、子どもたちの話をしっかり聞き、「どうすれば解決できるか」など、子どもたち自身で考えるように指導しています。

5月2日 えりも小学校プール 「風の子プール」がオープンしました

- 「風の子プール」が5月2日にオープンしました。今年で3年目を迎える施設ですが、日高管内では最も新しく、25mコースが4つのほか、幼児も遊べる水深の浅いコースもあります。



明るい室内、手前が幼児用の浅いコース

- 学校の授業で使用しない場合は、学校開放として町民の方も利用することができます。
- 泳ぐこと以外に、体力増強のために水中歩行もできます。普通のウォーキングと比べ膝関節に負担も少ないことから、おすすめです。
- 教育委員会では、オープンに先駆け4月28日に、プール運営に関わる職員を対象に、消防えりも支署の職員を講師として、AEDの使い方や心臓マッサージの救命訓練（写真）を行いました。



救急救命講習を受ける関係者
心臓マッサージ中

- 毎年、全国各地でプール事故が発生しています。最悪の場合、命を落とすこともあります。
- プールを利用する際には、他人に迷惑をかけない、危険な行為はしないなどのルールを守り、安全に楽しんでほしいと思います。
- 開館日は、火曜日から日曜日ですが、平日の学校使用時には、一般の方は利用できません。
- 一般の方が利用できる時間帯については、「風の子プール」（2-2033）へ、お問合せください。

～未来を担うえりもの子の学びのために～
「えりものはえりもで育てる」



えりも町

幼保小架け橋期プログラム

架け橋期とは？

5歳児から小学校1年生の
2年間で「架け橋期」と
いいます。生涯にわたる学び
の生活の基盤をつくるために
重要な時期です。

幼保小架け橋期プログラム 事業について

令和4年～令和6年の3年間、北海道版幼児
教育スタートプログラム事業の指定地域とし
て取組開始。幼児期に培った基礎を小学校へ
つなげます。子どもの育ちが途切れることな
く育まれていくよう「カリキュラム」づくり
を通してつなげていく取組です。

スタートカリキュラムについて

幼児期の学びを小学校へつなげます
(ゆるやかな接続)

幼児教育施設では「遊びの中での学び」
小学校では「教科等の授業を通じた学習」
になります。遊びから学習へと生活が変わ
る事で起こる「小1プロブレム」を解消す
べく、安心してスムーズに小学校生活を過
ごせるよう「スタートカリキュラム」を作
成し取組んでいます。



生活の流れの可視化。

入学式後の、戸惑いや不安を軽減で
きるよう、朝の流れを目で見てわか
るように、黑板には写真が貼られて
います。また靴箱にも幼稚園・保育
所で使っていたシールを貼ることで
わかるよう配慮されています。

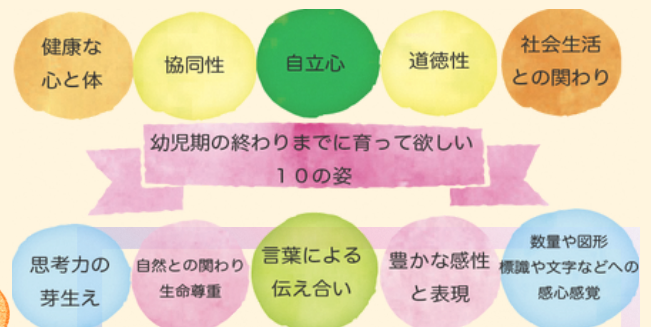
～10の姿を育む～

幼保小「あきまつり」交流会



夏と秋に幼保小の交流会を開催しました。

子ども同士が顔見知りになることでの安心感。就
学前の子ども達が小学校を知る事で入学する不安
を少しでも軽減し、安心して過ごせるように交流
する機会を作りました。今後も継続していく予定
です。



えりも町のめざす子ども像

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・たくましい子



えりも町教育委員会

佐呂間町保小連携・接続通信(仮題) ガイドンス訪問【準備号】

2023年5月9日(火)

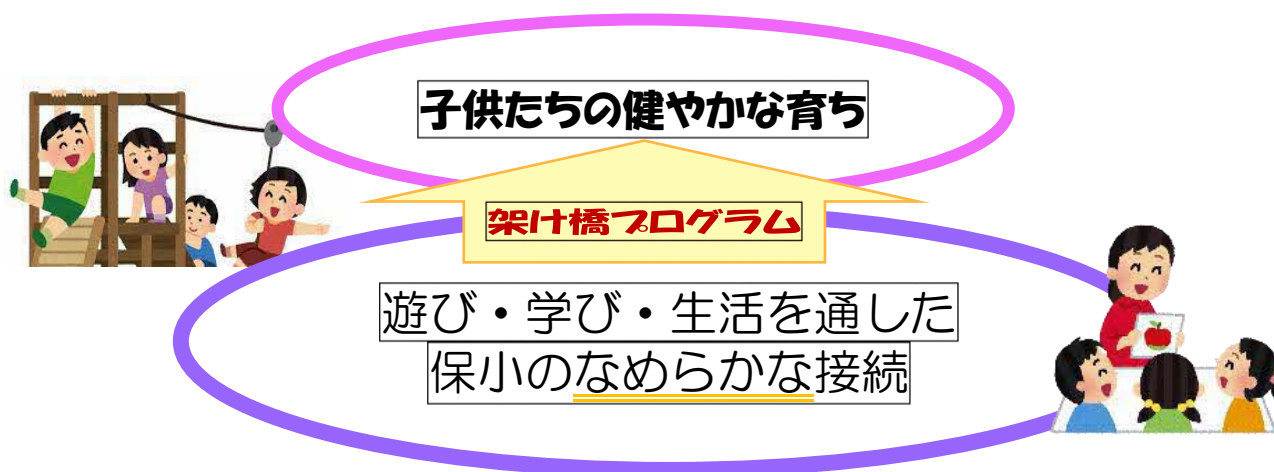
佐呂間町教育委員会 保小連携コーディネーター 菅原正弘

今年度、佐呂間町教育委員会保小連携コーディネーターを仰せつかりました菅原です。
どうぞよろしくお願いいたします。

* * * * *

「健やかな育ちと巣立ちを願う気持ち」は子ども(子供)の保育・教育に関わる全ての人の思いです。令和5年度佐呂間町の教育行政推進方針では、0歳～18歳までを見通した教育の姿が示され、「保小接続会議」を立ち上げ、保育所と小学校の接続の課題の検討を新たに開始する。」とされました。また、新しい保育所保育指針等や小学校学習指導要領が出て、未来の日本を生きる子供たちのために、幼保小の円滑な接続がますます重視されるようになってきています。

幼児・児童の健やかで滑らかな接続を求めて、今回佐呂間町として「佐呂間町保小^か架^{はし}け橋プログラム事業」がスタートすることになりました。各施設の皆様、各先生方をはじめ、佐呂間町保護者・地域の皆様のご協力とご支援を心からお願いいたします。



1 「架け橋プログラム」とは？

「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

具体的には、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」(10の姿)*を共通の手がかりに、保育所の遊びや生活を通して育てたい姿(**アプローチカリキュラムづくり**)や、小学校初期の段階での学びや生活が円滑につながるための指導計画(**スタートカリキュラムづくり**)を行います。それらを総合して「架け橋期のカリキュラム開発」を目指し、子供たちの育ちがなめらかに橋渡しされるための事業プログラムです。

【別紙 文科省「手引き」(抜粋)を参照ください】

2 佐呂間町での今年度の主な取組予定

実施時期	取 組 内 容
4～6月	□事業内容の計画・詳細検討 □会議の構成員の選定 □先行事例の集約 □課題の洗い出し □接続プログラム・カリキュラム開発方針の決定 ほか
7月	■開発会議(講師・教委・CO・各保小中高施設長) *アンケート(第1回)
9月	■ワーキンググループ会議(教委・CO・各保小先生方【年長・1年担任】) (※その他初年度でできること等の実施)
11月	■ワーキンググループ会議(教委・CO・各保小先生方【年長・1年担任】)
12月	■開発会議(講師・教委・CO・各保小中高施設長) *アンケート(第2回)
1月	■合同会議(開発会議+ワーキンググループ)
1～3月	◎中間のまとめ ◎次年度保小各施設経営方針へのリフレクション
4月	スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの初年度実施 *アンケート(第3回)



3 今後に向けて【ご協力をお願いについて】

(1) 年間スケジュール(保育所)の確認～「行事予定表」「日課表」等があれば

(2) 次回訪問で

- ① 「児童の活動取材」のお願い ～ コーディネーターが「10の姿」の視点で
- ② 年長児の指導計画、1年生の生活科の年間指導計画のコピー
- ③ これまでのスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムがあれば→【土台】
- ④ 課題や願いについて【A】

ア) 接続に向けて課題と感じていること イ) 子供の育ちに関わる願い



通信「さこっと」は、佐呂間の子どもたちの育ちをみんなで見守るニュースレターです。保育と教育そして子育てに関わるみんなの思いをつないで「架け橋」になる、そんなお便りを目指しています。

「0～18歳までの育ち」を見通しながら、特に保育所から小学校へのバトンをしっかりとつないでいきたいと願っています。保育所と小学校、子育てがつながる教育情報も広くお届けしたいと考えています。「さろまっ子をつなごう!ともに活かしあおう!」をモットーにこのプロジェクトを進めてまいりますので、皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

* * * * *

子どもたちの「幸せ」を願って ～ ご挨拶 ～

佐呂間町教育委員会教育長 谷川 敦

夏休みが終わり、保育所と学校に元気な姿が戻りました。暑い毎日が続いておりますので、皆様くれぐれもご自愛ください。

さて、本通信で紹介しているモデル事業は、やがて子どもたちが親の手を離れ社会人となり自立して生きていくことを見据え、その基盤となる保育所年長と小学校1年生の2年間で重要視し、この時期の接続のあり方を関係者の皆様で検討しているものです。保護者の皆様も、保育所や学校の皆様も、それぞれに異なる苦悩や困難があることと思います。

子どもたちの”今”も勿論大切ですが、”将来”1人1人の子どもたちがより「幸せ」であれるようこの取組を進めて参りますので、今後ともご理解ご協力よろしくお願い申し上げます。子どもたちとともに全ての大人もまた一緒に学び続け、皆様に「幸せ」が還元される”この先”に思いを致しながら。



◎第1回開発会議の様子から～思いをつなぐ! 架け橋プログラム～

先月7月10日(月)に架け橋プログラム事業の第一回開発会議が開催されました。今回は文部科学省幼児教育課の藤岡謙一課長にご講演頂きました。また委員として千葉大学の天笠 茂名誉教授、北見光西認定こども園の佐藤 亮園長にご出席いただき協議を行いました。はじめに藤岡謙一課長から「架け橋プログラム」の目的や取組内容などについてご講話をいただき、会議委員と各小学校教職員で研修を行いました。その後、未来のさろまっ子の力をすくすく伸ばすためにはどのような連携と協力が必要かなどについて、熱心な協議が行われました。

「ぜひ、皆様の素晴らしい幼児教育の実践を！」



～ 第 1 回 開発会議のご講演から（概要） ～

文部科学省 藤岡 謙一 幼児教育課長

教育は積み重ね。幼児教育から集団的な中で子どもたちが学んでいくという学校教育が始まっている。幼児教育で育む三つの資質・能力「知識及び技能の基礎」と「思考力、判断力、表現力等の基礎」、そして「学びに向かう力、人間性等」。これが小学校教育以降に学ぶ、育てる資質・能力であり、まさに基礎、ベースとなるものです。

幼児期の学びを踏まえて小学校、小学校の学びを踏まえて中学校へ、中学校のその先は・・・、という形で学びは連続しているわけです。

例えば、足し算なのに増えていない。引き算なのにむしろ増えている。「おかしい。」と普通は考える。答えが出た瞬間、自分が間違えたということに気がつくべきなのです。25－7の場合も、28と書いた瞬間にパッと気がつけるか、気がつかないのかというのは、まさに数の感覚の問題なわけです。

保育所保育指針では、3歳児以上のところで、「数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるように」ということが書いてあります。例えば、子どもたちが遊びの中でチーム分けをするときに、自分のチームの人数が減ったり増えたりするところで数の感覚を身に付けていく。この時に足し算・引き算ができるようになることを求めているのかということ、それは小学校で学ぶことになります。この根底となる数の感覚というものを幼児教育段階で学び、この数の感覚をベースにして小学校では、正確な加法減法の知識・技能の習得というものが育まれていく。知識・技能として計算のスキルが育まれていくということです。

令和4年度からモデル事業を進めておりまして、北海道様も参加いただいて、その中でここ佐呂間町でも実際にこのモデル事業を始めていただいているということでございます。本当にありがとうございます。

大事なこととして、幼保小の接続の改善というのは、「架け橋」という言葉に表れていますが、両方でやります。どちらかだけが変わるものではない。どちらかだけが汗をかけば良いという話でも勿論ないということです。「両方でやりましょう」ということです。

また、教育内容の活動自体を変えるものではないということです。今やっている活動は、当然子どもたちの様々な資質・能力を伸ばすために色々な活動をやられている。水遊びをしたり、どろんこ遊びしたり、積み木遊びをしたりと、色々とされていると思います。これらの活動が小学校以降で学ぶ内容や育成する力にどのようにつながっていくかを踏まえ、改めて価値づけていただくことを行っていただきたいと思います。

特にこの佐呂間町であれば、ある意味、保育所一つ、小学校一つというペアが出来上がっているので、そこはすごくやりやすいのではないかなというふうに思っております。ぜひ皆様の素晴らしい幼児教育が、子どもたちのために実践されますように、我々文部科学省としてもこの佐呂間町に本当に協力していきたいと思っておりますので、一緒になって頑張っていきたいと思っております。

どうも有り難うございました。





豊かな学び・新たな発見が一杯！

～保育所と小学校の協議（ワーキンググループ）が終了しました～

9月から12月まで佐呂間町内の保育所の先生方、小学校の先生方にお集まりいただき、協議会（ワーキンググループ）を開催しました。午前中に保育参観をし、夕方から協議を行い、佐呂間地区、浜佐呂間地区、若佐地区の各地区ごとに行って参りました。

快く多くのご意見、アイデアを下された委員の皆様、会場をお貸しくださいました各地区の保育所の皆様、大変有り難うございました。

「保育所での育ちを、よりスムーズに小学校へと橋渡ししたい」という今回の架け橋プログラムの目的の下、集まった先生方が毎回熱心にご協議くださいました。心から感謝申し上げます。



この協議で得られたご意見を元に、保育所年長と小学校1年生の2年間の子ども達の成長をよりスムーズにつなぐための「さろまっ子架け橋カリキュラム」（教育課程）を作成しているところです。

協議に参加された小学校の先生方の中からは、「保育所の子どもたちが、自分たちでここまで出来るとは思っていなかった」

「この豊かな学びの姿は、ぜひ小学校へとつなげたい」等のご意見を頂きました。



また、保育所の先生方からは「小学校でどんなことを大切にしながら学んでいくのかが分かった」「このカリキュラムを使って、小学校に入った後の学びが見通せる」「各ご家庭と連携して、一緒に子どもの成長を支えていくことが大切ですね」等のお声を沢山頂きました。

次のステップとしては、今回作成中の「架け橋カリキュラム」を来年4月から各保育所と小学校で、実践していくことになります。

この取組をさらに進めて参りますので、今後とも皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



幼児期の終わりまでに育ってほしい 10の姿



幸せな未来に向かって、さろまっ子の力をすくすくと伸ばすためにはどのような視点が大切でしょうか？

架け橋期（幼児期と児童期の2年間）の子どもたちにとっては、周囲から認められ、守られているという安心感が何よりも大切だと言われています。その心の安定を土台として、様々な環境に対し「自分から進んで（主体的に）」、「好奇心を持って」関わり、学び、やがて自分の個性や世界を拡大し、自立した生活へと向かっていくことができるようになります。

保育所の子どもを育む際に参考とされる「保育指針」や、児童を育む上で参考とされる「小学校学習指導要領」には、幼児期に子ども達が育ち行く姿を下のように「10の姿」で捉えています。



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿*

- ★健康な心と体
- ★自立心
- ★協同性
- ★道徳性・規範意識の芽生え
- ★社会生活との関わり
- ★思考力の芽生え
- ★自然との関わり・生命尊重
- ★数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ★言葉による伝え合い
- ★豊かな感性と表現

（＊到達すべき目標ではありません。）

丈夫な心と体を持ち、友達を思いやり、自分から興味・関心を抱き、豊かな感性を胸に学んでいく。そんなさろまっ子を保護者の皆様、保育所・小学校の先生方のほか、地域全体が支え、共に温かく育てていきたいと思えます。



さろまっ子プラスワンの力 ～第1回開発会議・ワーキンググループから～

10の姿に加えて、さろまっ子に身に付けさせたい力として「コミュニケーションの力」が挙げられました。ワーキンググループでは、目標の一つとして「思いを伝え合い、豊かな未来を創る子」を挙げ、さろまっ子が将来どこに出ても、「自分の良さを発揮しながら、自信を持って思いを伝え合うことができる」コミュニケーションの力が大切だということが話し合われました。

保育所で、小学校で、ご家庭でも、そして町を挙げて子どもたちの豊かな「コミュニケーションの力」をぜひ一緒に、温かく育て参りましょう。



おらせ



アンケートご協力をお願い ～今回の架け橋プログラム事業に関わって、各先生方や保護者の皆様、施設関係者の皆様に2回目のアンケートをお願いする予定です。改めてお知らせいたしますので、どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

